



♡ ドッグセラピー活動とは

医学の進歩によって死亡率が低下し、人間は長生きできるようになってきました。しかし、老人性痴呆症のように身体精神的な福祉の援助を必要とする人が増えている中で、医療では解決できないことも増えるばかりです。その中で今、注目を浴びているのがこのドッグセラピー活動であり、その効果が大きいと期待されています。

人間のように偏見をもたず、真っすぐに見つめてくれる犬に触れることで「生きる勇気が湧き、犬をさわりながらしゃべる対応」が、ストレスを減らし、血圧を下げリラックス状態をつくるなど動物と人間の間では、医療ではなし得ないことも可能となる場合があります。

♡ アニマルセラピーに向いている動物は？

他の動物と違い喜怒哀楽を表す犬は、コミュニケーションをとることが容易で、かつ人に忠実であり信頼関係を築けます。

お年寄りも柔らかな毛並みに触れ、温かな体温を感じることで自然と心が落ち着き笑顔になります。

犬は高齢者に対して自尊心、責任感、必要とされている気持ち、自立心や安堵感、笑いや楽しみを与え、ストレスや孤独感を癒すという緩和作用があります。

日本ではまだ、医学的にも科学的にも実証されていないことが多いようですが、犬と暮らす生活の中で、リラックス効果や癒されることを経験している方も多いと思います。

ドッグセラピーを必要とする人は多く社会的にも必要とされてきています。



♡ ドッグセラピー活動報告

・メディアファーム施設長 感想

利用者の方に動物が苦手な方や猫は好きだけど、犬はダメな方もいたので少し心配していました。

しかし、ドッグセラピー活動が始まったらそんな苦手な方も、犬にふれていました。認知症の方は犬とふれあうことで刺激になり、表情に変化がでて本当に、良かったです。このことが、一番ビックリしました。

人とコミュニケーションが苦手な方も、犬を通して少し会話やコミュニケーションが出来るようになりました。本当にセラピー活動にきていただいて良かったです。



・特別養護老人ホームサンライズ施設長 感想

本当に犬と触れ合う時は、皆様の反応がよく、昔、犬を飼っていた利用者さんからは、犬とふれ合うことが久しぶりで懐かしさから涙を流す利用者さんもありました。

また、いつも私たち介護で接している時とは違った表情を見ることができ、私たちスタッフも感動しました。



・グループホームビートルズ施設長 感想

普段とは違う入居者の表情や笑顔が多く見られました。また、身体を自発的に動かさない方も日頃と違う行動が見られ、正直スタッフも驚きました。昔から動物が好きであったり、動物を飼っていた方は、動物の思い出を語り夜も動物の話題で話が盛り上がりしました。

GHには認知症がある方々が入居されており自分自身の意志や感情をうまく表現できない方が多いですが、動物との触れ合いの中で、嬉しさや楽しさ愛らしさといった感情を表現できたと感じました。

